

# 登山月報

クライミング日本ユース選手権 2014“ミレーカップ”… 1  
 平成25年度理事会(第4回)報告 …… 2  
 平成26年度事業計画 …… 4  
 第65回 Mountain World …… 7  
 BMC International Winter Climbing Meet 2014に参加して… 8  
 【新連載】北から南から ブロック便り …… 11  
 全国「山の日」制定協議会臨時総会 …… 12  
 ヒマラヤニュース …… 13  
 第14回 JAPAN ドラッグストアショー出展 …… 13  
 新刊図書紹介 …… 13  
 JMA、寄贈図書、編集後記 …… 14

## クライミング日本ユース選手権2014“ミレーカップ”

世界ユース選手権など国際ユース大会の選考対象となるこの大会は、2010年千葉国体山岳競技会場の印西市松山下公園総合体育館で4年目の開催となり、北は北海道から南は沖縄まで全国37都道府県から男子128名、女子78名、計206名の選手が出場し、1日目にフラッシング2ルートの予選、2日目にオンサイトによる決勝の2ラウンドの競技を行った。

1日目は開会式終了後、男子ジュニア、ユースA、ユースBのグループと、女子に男子アンダーユースBを加えたグループで予選を各2ルートの4ルート同時進行で行い、最も早く終了したのが左壁の女子ルートで17時15分、最も遅かったのが右壁の女子ルートで18時20分。予選終了後に行う決勝ルート設定の時間を考えると運営上の限界であった。

予選のグレードは、男子左ルート12d(完登15名)、右ルート13a(完登6名)、女子左ルート12b/c(完登7名)、右ルート12a/b(完登17名)。

2日目の決勝は、男子はアンダーユースBのみ下部を異なるラインから上部で共通ルートに合流するルートで行い、その後にアンダーユースB用の下部のホールドをすべて外し、下部を別のラインから登るルートで、男子ユースB、ジュニア、ユースAの順に競技を行った。特に後半組の男子ルートは下部に難しい箇所

があり、多くの選手がそこでフォールする中、実力者が揃うジュニアでは昨年の世界ユース選手権ユースA優勝の島谷尚季が慎重な登りで見事完登し、直後に登った是永敬一郎も続いて完登したため、二人共に予選から全完登となり、タイム差で是永が優勝した。13bの男子決勝ルートを完登したのはこの2名のみであった。

女子は全員が同じルートで決勝を行い、12d/13aの決勝ルートを完登したのは、ジュニア優勝の尾上彩とユースAの田嶋あいか、小武芽生、義村萌の4人。ユースAでは田嶋と小武の二人が予選から全完登となり、決勝のタイム差で田嶋の優勝となった。できればタイム差による決着は避けたいところだが、年齢の異なるグループを同じルートで競わせるためルート設定がかなり難しい。時間さえ確保できれば、今後は女子も下部のラインを変えるなどの工夫で対処したい。

全体的なレベルが上がり、トップレベルの選手も世界で十分通用する力を備えてきているので、今年国際大会での活躍を期待したい。表彰者は以下の通りである。(文：目次俊雄、写真：高山雅夫)



女子ユースA優勝の田嶋あいか選手

男子ジュニア		男子ユースA	
1位	是永敬一郎(埼玉)	1位	波田 悠貴(埼玉)
2位	島谷 尚季(千葉)	2位	野村真一郎(茨城)
3位	檜崎 智垂(栃木)	3位	亀山 凌平(岐阜)
男子ユースB		男子アンダーユースB	
1位	田嶋 瑞貴(三重)	1位	奥村 優(滋賀)
2位	加藤 悠生(埼玉)	2位	高島 悠吾(千葉)
3位	盛田 康平(東京)	3位	山崎 奏空(富山)
女子ジュニア		女子ユースA	
1位	尾上 彩(埼玉)	1位	田嶋あいか(三重)
2位	廣重 幸紀(福井)	2位	小武 芽生(北海道)
3位	三浦絵里菜(宮城)	3位	義村 萌(三重)
女子ユースB		女子アンダーユースB	
1位	菊沢 絢(千葉)	1位	樋口 結花(佐賀)
2位	清水 夏子(千葉)	2位	菊沢 紗(千葉)
3位	戸田 萌希(山梨)	3位	風間 慧美(千葉)

## 平成25年度理事会(第4回)報告

### 1 日時

平成26年3月9日(日) 10時30分～14時45分

### 2 場所

岸記念体育会館101～103号会議室

### 3 会議の成立状況(定款第33条第1項)

定数 28名(理事:25名、監事3名)

出席者 26名 欠席 2名 計28名

### 4 出席者

理事:神崎忠男、國松嘉伸、佐藤旺、尾形好雄、小野寺齊、西内博、仙石富英、森下健七郎、京才昭、瀧本健、青木秀則、相良忠麿、増山茂、北村憲彦、小野倫夫、高橋時夫、小宮山稔、永山義春、亀井正明、伊藤克己、小林弘之、宮崎良平、多田修各理事 以上23名  
監事:内藤順造、岡本忠良、中島正喜、以上3名  
欠席者:八木原罔明、水島彰治、以上2名

### 5 神崎会長挨拶

2月16日に評議員会に代わる代表者会議を開催した。その時も公益法人としての3つのお化け退治「登山の多様化、組織の固定化、登山者・役員の高齢化」の話をしたが、さらに「公益化、国際化、情報化」の3つのお化け対応も迫られている。「山の日」制定は、8月11日案で今国会に提案される事になった。26年度は、広島でU A A A創立20周年記念総会を「広島山岳平和祭」の一環として開催する。是非この平和祭には大勢の参加をお願いしたい。26年度はこのほかクライミングのワールドカップ大会や日中韓技術交流研修会などお金のかかる事業が重なる。確かにお金はかかるが、それらの事業を開催すると云うことは、それだけ本協会に期待されているという事でもある、と挨拶。

### 6 議事役員を選出

定款第32条第1項の規定により神崎会長を議長に選出

### 7 議事録署名人の選出

定款第34条第2項の規定により神崎忠男会長、内藤順造・岡本忠良・中島正喜各監事を指名。

### 8 議事

(1)第1号議案 平成26年度事業計画(案)について

●提案通り承認された。

(2)第2号議案 平成26年度収支予算(案)について

\*中島:法人管理費支出の運営・事務諸費が213万円ほど増えているが、何が増えたのか。

◎尾形:登録料等の還付金を法人管理費の支払負担金

とした事と旅費交通費が40万円程増えている。

\*中島:消費税納入法人としての予算付はなされているか。

◎尾形:租税公課費として前年対比で53万円上積みしている。

\*中島:厚生年金、健康保険の社会保険料の予算付はなされているか。

◎小野寺:この予算書には未だ社会保険料が反映されていない。

\*中島:26年度は3つの特別事業のため520万円の赤字予算ということだが、将来的にこのような特別事業を行う場合の財源確保を考えておいて貰いたい。

\*西内:日山協の事業は、公益事業以外は収益事業になるのか。

◎小野寺:内閣府への申請時に法人会計、公益共通以外は、全て「公益目的事業1」にまとめたので、収益事業は無い。

\*伊藤:トレラン調査事業費が、前年対比で86万円減額になっているが、トレラン調査が終わったという事か。

◎尾形:25年度のトレラン事業費は5万円なので、これは25年度アイスクライミング・ジャパンカップの数字がずれ上がってしまったようだ。資料を差し替えてお配りしたい。

\*西内:岳連(協会)所属の選手登録費の事務手数料還付金は、次年度に還付されるが、全国高体連登山専門部所属の高校生の選手登録還付金もそのようにされると、3年生は卒業してしまい、登録事務手数料還付の恩恵に与れない。

◎尾形:高体連登山専門部と相談し、高体連の登録事務手数料は、6月末で一旦登録を締切り、7月に登録事務手数料を還付する事にした。

●第2号議案、提案通り承認された。

(3)第3号議案 平成26年度事山岳共済事業計画及び収支予算(案)について

\*中島:山岳共済会からの事業委託費の各事業へ配賦するポリシーを伺いたい。

◎尾形:山岳共済会と日本山岳協会の事業委託契約書では、「委託する事業内容については、甲乙が協議の上、別途定めるものとする。」としてあり、配賦基準等は定めていない。今後、共済委員会で検討したい。

●第3号議案、提案通り承認された。

(4)第4号議案 新規加盟団体の承認について

●提案通り、全国高等学校体育連盟登山専門部の加盟が承認された。

(5) 第5号議案 正会員入会の承認について

●提案通り、全国高等学校体育連盟登山専門部代表・梶本修氏の入会が承認された。

(6) 第6号議案 参与の推薦について

●提案通り、東京都山岳連盟から候補者として推薦された松元邦夫氏と藤井謙昌氏の推薦が承認された。

(7) 第7号議案 指導員認定の承認について

●提案通り、A C 指導員・神奈川5名、A C 上級指導員・神奈川5名の認定が承認された。

## 9 報告

資料に基づき、以下の報告がなされた。

(1) 平成25年度事業経過及び会計経過報告について

(2) 平成25年度補正予算について

(3) 代表者会議報告について

(4) WGの経過報告について

(5) 平成25年度山岳共済会事業経過報告について

(6) HPのアクセス件数について

## 10 その他・質疑応答

\*小野：山岳共済会事業報告にモンベルとのコラボ・カード導入の検討とあるが、内容を説明して貰いたい。

◎尾形：山岳共済会員へのサービスの一環として希望者には2,000円の年会費でモンベル・カードとコラボした山岳共済会員証を導入できないか検討している。

\*小野：全日本登山大会の見直しは、以前からも叫ばれてきたが、第54回大会からは具体的にどのように改革するのか。

◎仙石：宿泊別の日帰りコースやトレラン・コースの導入。参加費の見直し、高校生の参加、地元商工会とコラボして地元物産店の出店などで地域活性化を図る。従前の良いものは残し、新しい良いものを取り入れながらガイドラインを整備したい。

\*小野：ソチ冬季五輪選手派遣費の補正予算が説明されたが、26年度のアイスクライミング・ジャパンカップの予算は零になっている、競技部としてアイスクライミング大会はどのように捉えているのか。

◎森下：以前はスズキなどの協賛を得て北海道下川町などで開催していたが、最近は厳しい環境にあり、事業の見直しになっている。競技部としてもジャパンカップが開催できないことには力不足を感じている。WCなどで活躍している選手に競技部へ入って頂いてアイスクライミングを牽引して貰えれば、と

期待している。

\*小野：S C コーチの資格は国体監督などで分かるが、A C コーチの位置づけはどうか。

◎瀧本：山岳のA C コーチは、旧A級、B級、C級指導員から移行された方が殆どで、現在は受講されていない。日体協のコーチ資格は、代表チームを指導できる資格。山岳は、代表チームを持たないので、コーチ資格が生かされていない。山岳では上級指導員もコーチも殆ど同じ資格となっている。

\*小野：審判員、競技運営員の認定・登録の事務処理が、非常に遅い。迅速に処理して貰いたい。

◎尾形：ご迷惑をおかけして申し訳ない。代表者会議でも同様な指摘を頂いた。早急に善処したい。

\*高橋：県レベルで対応するために個人会員制度についての考えをお聞きしたい。

◎國松：個人会員制度については、未だ具体的な方向性は固まっていない。日山協は都道府県山岳連盟だけを対象にするのではなく、広く登山愛好者に対して責任を果たす必要がある。当面は、各岳連でパーソナル会員制度を取り入れてそれらの登山を支援し、バックアップすべきと考える。将来的にはどんな資格の会員であっても日山協に登録して貰いたいと思っている。

◎神崎：代表者会議でも同様の質問があった。既に個人会員制度を行っている岳連から日山協の個人会員制度に足並みを揃えなくてはならないのか、と言われた。日山協で考えているのは登山者登録制度で、登山者を登録させることによって、登山者自身に責任を持って貰いたいと考えている。パーソナル会員制度とは、性格が異なる。

\*高橋：選手登録制度なども視野に入れた個人会員制度を検討して頂きたい。それからJ A Cの本部が東京都山岳連盟から退会して、日山協にも加わらないと伺ったが、岳連とJ A C支部は従前通り連携して事業を行っていきたくないので、マイナスに作用しないようお願いしたい。

◎神崎：県岳連とJ A C支部は連携して登山の普及につながる活動をして貰いたい。

◎西内：組織WGでは、組織統合する前に指針を固めたいので、26年度から組織統合するのを1年先送りした。登山者の育成・教育に日山協はどのように関わるのか、登山者育成のために日山協はどのような目的で教育するのか、その教育に必要な指導者をどのように育成するか、などの形で実現していきたいと思っている。指導員制度は日山協の財産なので、

この財産もうまく活用したい。中高年登山者の教育・指導も大変だが、若い人たちにどのような教育を提供していくかも大きな問題である。

\*内藤：WGの重要課題の先送りだと思うようにいかないうのだ。今、登山部の在り方について説明があったが、競技部の在り方は、どのように考えているのか。

◎森下：競技部としてはIFSCに準じたNFとしての組織創りを考えている。審判・競技運営員登録制度に

ついては、前任者からの引継ぎが悪く、迷惑をかけたが、改善しつつある。スポーツクライミングの選手層は厚く、成果は出ている。これはジュニア強化合宿の派遣が大きいと考えている。

\*増山：様々な世界の文化の中で日山協の存在を認めて貰うためには、登山以外で社会に対する貢献が必要。災害に備えて都会でサバイバルする「災害サバイバルキャンプ」に対して各岳連、各委員会の協力をお願いしたい。

## 平成26年度事業計画

### 1. 青少年育成事業

ア) 高体連登山部関連

①第58回全国高等学校登山大会

8/8(金)～12(火) 神奈川県・箱根山域

②第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

12/23(祝)～24(水) 埼玉県加須市市民体育館

イ) ジュニア登山教室

①「ジュニア普及情報交換会」開催 2/14(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター

②「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 2014」

8/17(日)～20(水)

国立立山青少年自然の家、立山周辺

③「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊 2015」

3月、国立那須甲子青少年自然の家

### 2. 安全登山の啓発事業

ア) 中高年安全登山指導者講習会

①東部地区(青森・岩木山) 9/26(金)～28(日)

②西部地区(岡山・蒜山三山周辺) 11/1(土)～3(祝)

イ) 山岳レスキュー講習会

①西部地区(富山県・国立登山研修所)

9/26(金)～28(日)

②東部地区(会場未定) 1/23(金)～25(日)

ウ) 第53回全日本登山体育大会の開催

10/11(土)～13(祝) 徳島県・剣山周辺

エ) 研修及び研究会

①遭難対策研修会兼委員総会 6/28(土)～29(日)  
(関東)

②遭対常任委員夏山研修会 5/10(土)～11(日)

埼玉県・上尾市スポーツ研修センター

③国際委員総会兼第33回海外遭難対策研究会

6/14(土)～15(日) 長野県山岳総合センター

④海外登山懇談会 11/6(木)

国立オリンピック記念青少年総合センター

⑤第53回海外登山技術研究会 2/14(土)～15(日)

国立オリンピック記念青少年総合センター

オ) 平成26年度全国山岳遭難対策協議会の共催(文部

科学省他) 7/4(金) 東京

### 3. 登山指導者育成事業

ア) 指導員研修会

①指導常任委員研修会

・8/30(土)～31(日) 神奈川県山岳スポーツセンター

・12/13(土)～14(日) 神奈川県山岳スポーツセンター

②氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成

講習会) 4/26(土)～27(日) 富士山

③指導委員研修・委員総会 6/7(土)～8(日)

東京海員会館

④登攀技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成

講習会) 11/29(土)～30(日) 岡山県

⑤氷雪技術常任委員研修会 1/31(土)～2/1(日)

群馬県・谷川岳

⑥氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成

講習会) 2/14(土)～15(日) 大山

⑦指導委員ブロック研修会(東部地区) (未定)

⑧安全登山実践講座・基礎編の開催 4月～3月

### 4. 競技会運営事業

ア) 競技会・研修会の開催

①第9回山岳スキー競技日本選手権大会

4/5(土)～6(日) 長野県・栂池高原

②第28回リード・ジャパンカップ(長崎国体リハー

サル大会) 6/7(土)～8(日) 長崎・大村市

③第17回JOCジュニアオリンピックカップ

8/2(土)～4(月) 富山県南砺市桜が池cc

④全国ルートセッター研修会

8月(未定) 富山県南砺市桜が池cc

⑤IFSCクライミング・ワールドカップ印西大会

2014の開催 10/25(土)～26(日)

千葉県印西市・森山下公園総合体育館

- ⑥2014クライミング日本選手権  
11/23(日)～24(祝) 山口県
- ⑦第10回ボルダリング・ジャパンカップ(2月)
- ⑧2015ユース日本選手権(3月)
- ⑨競技委員会ブロック研修会の開催 11月～3月
- イ)国体山岳競技の主管
- ①5/17(土)～18(日) 第69回長崎国体第1回基準会議、長崎県大村市
- ②6/6(金)～7(土) 第69回長崎国体第2回基準会議、長崎県大村市
- ③9/7(日) 組合せ抽選会 岸記念体育会館
- ④各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ⑤10/17(金)～19(日) 第69回長崎国体山岳競技、長崎県大村市
- ウ)競技運営
- ①競技委員総会の開催 4/6(日)
- ②審判・セッター会議の開催(3月)

## 5. 競技力向上事業

- ア)代表選手の派遣
- ①世界ユース選手権大会 9/19(金)～23(火)  
ニューカレドニア・ヌメア
- ②I F S Cクライミングワールドカップ2014(リード、ボルダリング) 3月～11月 世界各地
- ③世界選手権大会(ボルダリング)  
8/21(木)～23(土) ドイツ・ミュンヘン
- ④世界選手権大会(リード、スピード、パラクライミング) 9/8(月)～14(日) スペイン・ヒホン
- ⑤アジア選手権大会(未定)
- ⑥アジアユース選手権大会(未定)

## 6. 国際交流事業

- ア)開催
- ①日中韓登山技術交流研修会 9/4(木)～10(水)  
群馬県・谷川岳周辺
- ②「山岳平和祭」の開催(「共益事業」の会議等「U A A A創立20周年記念総会」を参照)  
11/22(土)～26(水) 広島市
- イ)派遣
- ①BMC International Climbers Meetへの派遣
- ②U A A A合同登山隊の派遣(4月、ネパール・ムスタン)
- ③キルギス山岳会・レーニン峰登山隊への派遣
- ④イタリア山岳会・International Trad Climbing Meetへの派遣

## 7. 医・科学支援事業

- ア)UIAA MedCom
- ①テーマ「Non Caucasian and High Altitude」についての調査・研究及び発表(継続)
- ②UIAA MedCom Meetingへの出席 5/25(日) イタリア

## 8. 山岳環境保全事業

- ア)研修及び研究会
- ①第38回自然保護委員総会 11/22(土)～24(祝) 広島市
- ②常任委員現地研修会 6/14(土)～15(日)  
御岳山ビジターセンター
- ③第5回指導員研修会 11/26(水)  
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ④第3回関東ブロック自然保護交流会 (10月、栃木)

## 9. 会議等

- ア)総会 5/25(日)
- イ)理事会 第1回 5/10(土)、第2回 5/25(日)  
(総会終了後)、第3回 11/9(日)、第4回 27年3/8(日)
- ウ)代表者会議(仮称) 27年2/15(日)
- エ)全国参与会 10/11(土) 徳島県(第53回全日大会開催時) 27年1/17(土)東京・アルカディア市ヶ谷(新春懇談会開催時)
- オ)常務理事会 定例会毎月第2木曜日開催(原則)
- カ)連絡部会(常務理事・委員長会議) 6、9、12、3月第2木曜日(原則)
- キ)新春懇談会 27年1/17(土)  
アルカディア市ヶ谷
- ク)国際会議
- ①国際山岳連盟(U I A A)理事会 5/22(木)～25(日) ドイツ・ミュンヘン/総会 10/16(木)～18(土) アメリカ・フラッグスタッフ
- ②アジア山岳連盟(U A A A)理事会 5/30(金)～6/2(月) 香港/総会 11/22(土)～26(水) 広島
- ③国際山岳スキー連盟(ISMF)総会 6/13(金)～15(日)、スウェーデン・ストックホルム
- ④国際スポーツクライミング連盟(I F S C)総会 (3月)

### 【お詫びと訂正】

『登山月報』第540号の7頁左上から13行目の「記国際委員長 澤田実」は、「国際常任委員 岩崎洋」の誤りでした。お詫びして訂正します。

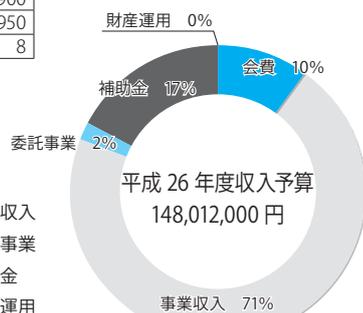
平成26年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

科 目	収支予算書<資金収支ベース>			収支予算書総括表<資金収支ベース>			
	予 算 額	前年度予算額	増 減	公益目的 事業会計	公益共通会計	法人会計	合 計
I. 事業活動収支の部							
1. 事業活動収入							
01 基本財産運用収入	0	100,000	-100,000	0	0	0	0
02 会費収入	15,200,000	14,480,000	720,000	0	0	15,200,000	15,200,000
03 事業収入	104,954,000	80,290,000	24,664,000	86,852,000	7,565,000	10,537,000	104,954,000
共済会委託事業費	40,000,000	40,000,000	0	31,918,000	4,765,000	3,317,000	40,000,000
登録料収入	7,240,000	3,310,000	3,930,000	20,000	0	7,220,000	7,240,000
参加者負担金収入	34,662,000	26,740,000	7,922,000	34,662,000	0	0	34,662,000
協賛金収入	17,240,000	5,440,000	11,800,000	17,240,000	0	0	17,240,000
広報出版事業収入	2,800,000	4,200,000	-1,400,000	0	2,800,000	0	2,800,000
その他事業収入	3,012,000	600,000	2,412,000	3,012,000	0	0	3,012,000
04 受取委託金収入	2,900,000	2,900,000	0	2,900,000	0	0	2,900,000
日本スポーツ振興センター委託金	2,900,000	2,900,000	0	2,900,000	0	0	2,900,000
05 補助金等受入収入	24,950,000	18,690,000	6,260,000	24,950,000	0	0	24,950,000
JOC委託事業収入	2,340,000	2,800,000	-460,000	2,340,000	0	0	2,340,000
国民体育大会補助事業収入	6,440,000	4,200,000	2,240,000	6,440,000	0	0	6,440,000
日本体育協会補助金	1,500,000	1,390,000	110,000	1,500,000	0	0	1,500,000
スポーツ振興くじ補助金	7,310,000	5,600,000	1,710,000	7,310,000	0	0	7,310,000
ワールドゲームズ協会補助金	0	1,000,000	-1,000,000	0	0	0	0
日本スポーツ振興基金補助金	7,360,000	3,700,000	3,660,000	7,360,000	0	0	7,360,000
06 雑収入	8,000	0	8,000	0	0	8,000	8,000
受取利息	8,000	0	8,000	0	0	8,000	8,000
事業活動収入計	148,012,000	116,460,000	31,552,000	114,702,000	7,565,000	25,745,000	148,012,000
2. 事業活動支出							
01 事業費支出	119,902,000	86,400,000	33,502,000	119,902,000	0	0	119,902,000
普及事業費<公1>	12,905,000	13,530,000	-625,000	12,905,000	0	0	12,905,000
遭難対策事業費<公1>	5,772,000	5,990,000	-218,000	5,772,000	0	0	5,772,000
指導事業費<公1>	5,128,000	7,300,000	-2,172,000	5,128,000	0	0	5,128,000
競技会運営事業費<公1>	26,684,000	23,300,000	3,384,000	26,684,000	0	0	26,684,000
競技力向上事業費<公1>	28,101,000	25,320,000	2,781,000	28,101,000	0	0	28,101,000
国際交流事業費<公1>	2,863,000	3,020,000	-157,000	2,863,000	0	0	2,863,000
医科学事業費<公1>	7,480,000	5,430,000	2,050,000	7,480,000	0	0	7,480,000
自然保護事業費<公1>	2,717,000	2,510,000	207,000	2,717,000	0	0	2,717,000
特別事業費<公1>	28,252,000	0	28,252,000	28,252,000	0	0	28,252,000
02 公益共通支出<公共>	7,565,000	6,190,000	1,375,000	0	7,565,000	0	7,565,000
広報出版事業費	7,565,000	6,190,000	1,375,000	0	7,565,000	0	7,565,000
03 管理費支出<法>	25,745,000	23,870,000	1,875,000	0	0	25,745,000	25,745,000
人件費	6,420,000	6,680,000	-260,000	0	0	6,420,000	6,420,000
運営・事務諸費	19,325,000	17,190,000	2,135,000	0	0	19,325,000	19,325,000
事業活動支出計	153,212,000	116,460,000	36,752,000	119,902,000	7,565,000	25,745,000	153,212,000
事業活動収支差額	-5,200,000	0	-5,200,000	-5,200,000	0	0	-5,200,000
II. 事業活動収支の部							
1. 投資活動収入							
01 特定資産取崩収入	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出							
01 特定資産取得支出	0	0	0	0	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
III. 財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
01 借入金収入	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出							
01 借入金返済支出	0	0	0	0	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
収入合計	148,012,000	116,460,000	31,552,000	114,702,000	7,565,000	25,745,000	148,012,000
支出合計	153,212,000	116,460,000	36,752,000	119,902,000	7,565,000	25,745,000	153,212,000
当期収支差額	-5,200,000	0	-5,200,000	-5,200,000	0	0	-5,200,000
前期繰越収支差額	15,800,243	13,460,787	2,339,456				15,800,243
次期繰越収支差額	10,600,243	13,460,787	-2,860,544				10,600,243

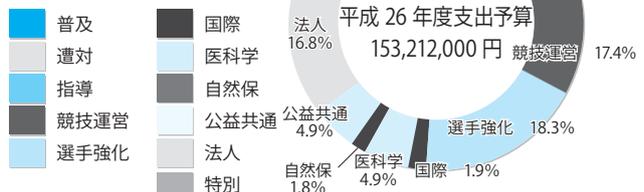
平成26年度収支予算

単位：千円

収入予算	
会費	15,200
事業収入	104,454
委託事業	2,900
補助金	24,950
財産運用	8



支出予算	
普及	12,905
遭難	5,772
指導	5,128
競技運営	26,684
選手強化	28,101
国際	2,863
医科学	7,480
自然保	2,717
公益共通	7,565
法人	25,745
特別	28,252



## 第22回ピオレドール賞決まる

池田常道

昨年度、候補となった6隊すべてが受賞するという異例の展開で論議を呼んだピオレドール賞は、3月26日から29日にかけてシャモニとクールマイユールで行なわれた式典でK6西峰とアンナプルナ南壁が選ばれた。昨年の結論「いずれも甲乙つけがたいから全員表彰」（審査委員長スティーヴン・ヴェナブルズ）は、なんのための審査委員会かという疑問を呼んだ。ジョージ・ロウ（米）を長とする今年の委員会は、原点に立ち戻って妥当な結論に至ったことになる。

異なる登攀の優劣を、そもそもつけることができるのかという根本的な疑問は、2007年1月の受賞者マルコ・プレゼリによって提起されて論争を呼び起こし、翌年のピオレドールは中止に追い込まれた。1年の空白を経て、ただひとつのグランプリを選ぶ方式から、それぞれに意味のある登攀を複数表彰するように変わった経緯がある。

さて、今回ノミネートされたのは以下の5隊で、受賞したのは（3）と（4）である。

- (1) チェコのマレク・ホレチェクとズデニェク・フルビーによる東部ネパールのタルン・ピーク(7439m)北壁初登攀。
- (2) オーストリアのアウアー兄弟とスイスのジーモン・アンタマッテンによるカラコルムのクンヤン・チッシュ東峰(7400m)初登頂。
- (3) カナダのラファエル・スロウインスキーとイアン・ウェルステッドによるカラコルムのK6西峰(7040m)初登頂。
- (4) スイスのウエリ・シュテックによるアンナプルナI峰(8091m)南壁新ルートソロ。
- (5) アメリカのマーク・アレンとグレアム・ジーマーマンによるアラスカのマウント・ローレンス(3052m)初登頂。

\*

K6西峰の初登頂は、昨年9月号の本欄で簡単に紹介した。チャラクサ氷河に臨むこの未踏峰は、2007年にスティーヴ・ハウス、ヴィンス・アンダーソン、マルコ・プレゼリの強力トリオが手を付け、カナダのマクシム・テュルジョンらも挑んで果たさなかった難物だっ

た。K6主峰自体も1971年に反対側のナンマー氷河から登られただけで、チャラクサ氷河に面する北面一帯は長らく空白で残されていた。今回のカナダ・ペアは当初、アメリカのジェシー・ヒューイとの3人パーティだったが、6月にナンガ・パルバットBCで起きたテロ事件（昨年7月号本欄参照）で身の危険を感じたヒューイが帰国、残る2人が7月25日から29日で北西壁を登攀したものの。

今井健司、宮城公博、中島健郎の日本トリオも彼らにさきがけて同じ北西壁から初登頂を試みたが、悪天候に妨げられて停滞を強いられた末、惜しくも6日目に断念、長蛇を逸したかたちになった。

アンナプルナ南壁のソロは11月号本欄に詳しいので簡単に記す。スイスのウエリ・シュテックが、70年英国ルートと81年イエティ同人ルートにはさまれた未踏のクーロワールを、10月8日から9日にかけて28時間で往復したものである。彼がこのルートに挑んだのは2007年、08年に続いて3度目だった。今回はカナダのドン・ボーウィと組んで入山し、6100m地点にデポを設けただけで攻撃に踏み切った。核心のロックバンドをロープも結び合わずにフリーソロすることに躊躇したボーウィは取付きで断念、シュテックは夜間登攀を敢行して9日未明頂上に達した。

なお、この驚異的なソロから約2週間たったころ、フランスのヤニック・グラジアーニとステファヌ・ブノワも同ルートの第2登を果たした。シュテックが登ってから降雪があったりしてコンディションは必ずしもよくなかったが、イエティ同人ルートの下部から入って、悪天候による停滞3日を含む10月17日～24日で頂上を往復した。彼らは今回審査員特別賞（special mention）を受賞した。このほか、生涯功労賞はアメリカのジョン・ロスケリーに与えられた。1970～80年代にアメリカのヒマラヤ・クライミングを牽引した彼については2月号本欄に紹介したとおりである。



ノミネートされたクライマーたち。左端がウエリ・シュテック、1人おいてイアン・ウェルステッド、右から2人目がラファエル・スロウインスキー。

## BMC International Winter Climbing Meet 2014に参加して

2014年1月26日～2月2日、英国登山評議会（The British Mountaineering Council（以下BMC））が主催するインターナショナル・ウィンター・クライミング・ミート2014に日本山岳協会からの派遣で今井健司と中島健郎が参加しました。以下の通りご報告いたします。

**日時**：2014年1月26日～2月2日

**場所**：イギリス、スコットランド

**参加者**：ゲスト26カ国44名、ホスト47名（日本からは今井健司(31)(Right&First)、中島健郎(29)(関西学院大学山岳会))

### 日程概要

1月25日 日本(成田空港)＝イギリス・ロンドン(ヒースロウ空港)

1月26日 ロンドン(ガトウィック空港)＝スコットランド(インヴァネス空港)

1月27日～2月1日 各地でクライミング(全て日帰り)

2月2日 スコットランド(インヴァネス空港)＝ロンドン(ガトウィック空港)

2月3日 ロンドン(ヒースロウ空港)＝

2月4日 ＝日本(成田空港)

### 行動概要

時差ボケのまま降り立ったスコットランドは生憎の曇り空。いや、生憎というのは語弊があった。毎日が曇りで雨か雪が降ったり止んだり。この土地ではこれが当たり前。結局クライミング時もサングラスを使用した日は無かった。

クライミング初日は雨。そもそも緯度が日本より高いのに真冬に雨とは考えもしなかった。実際気温も

高く、氷点下になることはほとんどない。天気が比較的穏やかなエリアを探して2時間のドライブで着いたGlen Coe (Stob Coire Nan Lochan) の岩場も雨のアプローチから始まる。話には聞いていたが、歩くスピードが早い。もともとの足の長さの差もあるのだが、普通に歩いていたら徐々に離されてしまうので早歩きしないとついていけない。2時間近く歩いたが、休憩もとらず一気に取り付きまで。もちろん汗だく。そこで出ました、お着替えタイム。取り付きでは雨ではなく雪に変わっていたが、雪の降る中、上半身裸になって着替えている様は何とも異様。汗が冷えて寒い思いをするよりは断然良さそうだが、汗をかかないようにすればいいのと思う。

前半3日間のパートナーは偶然にも2年前に長門さんと組んだSimon Frost。ここの壁はピッチスケールでは3P程だが傾斜の強い壁で、日本のような草付きやブッシュのないスッキリしたフェース。ルートは多くあるが、壁が横に広いので所狭しにルートがびっしりある訳ではない。初日なのでルートグレード自体は易しめだったが、その中でもサイモンはなぜか弱点ではなく、あえて強点を登らせようとする。ヘックスなど使ったことも無いギアなので、イマイチ安心感が持てない。傾斜のあるクラックではさっそく軽くパンプしながらも、快適なスコットランド冬壁初日を楽しむことが出来た。

2日目はロッジから一番近いCairn Gormへ。車で10分ほどでスキー場に付き、そこから1時間程度で歩いてCoire An T-Sneachdaの岩場へ到着。ここもルート自



雪の降る中で着替え



ブリティッシュスタイル



傾斜は強い

体は2〜3ピッチ程度でそれほどスケールは大きくないが、ルートの取り方次第で易しいのから難しいのまで様々。ルートも短いのでこの日は2本登ったが、いずれにせよ快適。岩も安定していてクラックも発達しており、下降も歩いてすぐ。ここでは日本のフリーゲレンデにでも行くような感覚で冬壁に行けてしまう。

3日目はサイモンとの最後日なので、長いマルチピッチルートを選んでくれた。ドライブ2時間、歩き2時間で到着したのはNorthern Highlands, Beinn Eighe (Triple Buttresses) のWest Buttress Direttissima (VII, 8)。ディレティッシマというだけあって、見上げるコーナーはすばらしく直線的だが、傾斜は強そう。サイモンのリードでスタートしたものの、出だしから苦戦している。フォローでようやく分かったのだが、今までと違い草付きが多い上に今日は気温が高い。全く役に立たない草付きに何度もアックスを振ってドロドロになりながらビレー点に到着。続く2P目は傾斜が増してプロテクションも余り取れない上に、凍り付いていない氷や草付きで結構シビア。なんだか日本の冬壁を登っているのと錯覚を起こしてしまいそうだ。3P目サイモンがリードだが、小ハング越えが見るからにヤバそう。下は甘いプロテクションなのでもろに落ちたら吹っ飛ばす系。何度もアックスを振って行ったり来たりしていたが、テンションが入り選手交代願いで僕にリードをさせてもらう。確かにこれでは落ちられないというプロテクションなので、自然と腕に力が入る。パンプしているがなんとかクリア。あとはそれほど難しくもないルートだが途中から日が落ちヘッドランプでのクライミングだったのでトップアウトは20時。駐車場には22時過ぎて、ロッジには24時を回っていた。それにしても、ゲストのサイモンは43歳ぐらいのベテラ



中央の顕著なクラック

ンクライマーではあるが、運転してクライミングしてまた運転と、底知れぬ体力と気力の持ち主であった。

前半が終わり4日目からはNeil Adamsという32歳の若い兄ちゃん。昨夜の帰りが遅く、今日はレストでもいいよと言ってくれたが、天気はそれほど悪くないので近場のCairn Gormへ。今日のクライミングはマイルドだったが、下りで負傷者に遭遇。稜線から滑落したようで、足など骨折して顔も血まみれ。既に同パーティのメンバーが救助要請してツェルトに包まっていた。寒いというのでダウンジャケットを掛けてあげ、テルモスの紅茶を飲ませてあげた。現地の人にはテルモスを持たない。テルモスが重いからなのか、いつもペットボトルやナルゲンで冷え切った飲料を飲んでいる。凍りはしないと言えども、日本的な感覚では信じられないが、日本の山専ボトルの保温力には驚いていた。しばらくして、救助ヘリが近くにランディングし、迅速に病院へ搬送された。スキー場でアプローチが近く、簡単に入山できてしまうので、初心者の事故や遭難もやはり多いらしい。フリーのゲレンデのようだといえども、油断はできない。ただ、ゲストの装備にツェルトなどの緊急幕営装備はなかった。何かあったらどうなるのかとも思うのだが。それよりも軽量でスピーディーに行動する方が優先なのだろう。

5日目は本格的に大荒れ予報なので、山にはいかず



長靴でM10をフィギア4



下りで負傷者の救助に遭遇

ドライツーリングエリアに行く。2時間かけて着いたケープは噂では聞いていた通りのどっかぶり。きちんとチッピングされており、手順まで決まっている。ドライツーリングなんてまともにやったことのない私はM8ぐらいまではできた

が、M10になるとお手上げ。ホストクライマーが長靴でM10を全てフィギア4の繰り返しで登っていたのには唖然とした。帰りは天気が悪く道が通行止めになっていた。この地でスタッドレスタイヤを履いている車はほとんどない。気温がそれほど下がらず雨が多いからだが、寒気が入って雪が降る時はこうして突如通行止めにしてしまうという強引さ。おかげで、5時間のロングドライブとなってしまった。

最終日はそれほど天気が良くないが、場所を選んでAn Teallachへ。岩場の中央付近に顕著なクラックがあり、トポでルートを確認めるとラインが無い。ホストのニールに聞くとあそこはまだ未踏のようだ。それならばぜひチャレンジしようということになり早速取りつく。しかし、それが間違いだったと気づいたのは2P目からのリードであった。ボロボロの浮石だらけでプロテクションも甘い。絶対落ちられないクライミング。ここは滝谷か。これは未踏ではあったかも知れないが、登ってはいけないうるルートなようだった。実質4Pだったが、7時間の奮闘的なクライミングを最後に満喫した。

## 感想

スコットランドでの6日間は本当にあつという間であった。初めは言語の壁が不安であったが、そんなものは大した問題ではないとすぐに分かった。環境や文化は違えども、やっているウィンタークライミングは皆同じ。みんなクライミングが大好きってこと。意外なことに今回アジアからは日本以外にはモンゴルからの参加者がいた。モンゴルからは初参加だったようで、それほどシビアなクライミングはしていないようだったが、顔が似ているというだけで何故か親しみを覚え話げできた。

スコットランドのクライミングは傾斜が強くフッキングで登ることが多いかと思えば、草付泥だらけの日本のなともありと色々楽しめた。そしてまた、日本のクライミングの魅力も再確認できた。錫杖岳などの似たようなクライミングだけでなく、豪雪地帯でテント担いでクライミングしながら何泊もする。これは日本であるからこそできる山行である。今年の黒部横断で17日間40kg近くの荷物を背負いシャベル振り回しながらラッセルしている写真を見せると皆驚いていた。日本の冬山って素晴らしいんだなど改めて実感し、また日本でのクライミングが世界の壁につながっているということも分かった。

**宿泊施設:** グレンモアロッジGlenmore Lodge (Aviemore) 山岳スポーツセンター。食堂、寝室、ホール、乾燥室、

クライミングウォールなど、設備は整っており快適に過ごせた。

**食事:** 朝、夕は食堂で食べられる。朝は7時からだが、出発が早い時は簡単に準備されている。行動食は前夜か出発前にサンドイッチやチョコ、果物やケーキなど選んで持って行く。夕食も7時からだが、遅くなった場合は取置いてくれている。夕食の時間までに帰ってこれたのは2回しかなかったのが残念。

**参加費用:** 1人£140 (約25000円2014年3月現在) グレンモアロッジでの全期間の宿泊費、食費や岩場への移動費も全て含まれる。ロッジで別途必要となるのはロッジ内のバーでのアルコールなどの個人的な飲食代ぐらいである。スコットランド・インヴァネスまでの渡航費用は日本山岳協会に負担していただいた。

**使用ギア:** プロテクションはヘックスとナッツがメイン。ロックハーケンやカムは少し。トライカムは現地ではメジャーでは無かったが、結構使えた。ロープは8mm 60m。スクリュウは今回使わなかったが、ルートによっては必要。基本的にホストクライマーが用意してくれた。ホストクライマーのアックスはほぼノミック。僕自身はコブラであったが、傾斜が強いのでノミックの方が断然良さそう。

**服装:** イメージ的には3月の北アルプス。氷点下になることはまれで、寒さよりも動きやすい服装が必要。濡れるので化繊のジャケット。グローブも薄手か中厚程度でクライミングしやすい方が良い。もちろん毎日濡れてびしょびしょになるが、毎日乾かせるので問題なし。

## 最後に

BMCをはじめホストクライマーの献身的な協力でのこのようなミーティングが開催されており、長い間継続されていることに感銘を受けた。このような機会を与えていただいた日本山岳協会に大変感謝いたします。

(記 中島健郎)

歩きごたえのある登山と2つのフィヨルド展望ハイキング

**北欧最高峰登頂と  
ルウェー2つのフィヨルド展望ハイキング9日間**

<b>発着地</b> 東京	<b>旅行代金</b>
<b>出発日</b> 7/15(火)・8/22(金)	<b>¥698,000</b>

※燃油サーチャージ(2014年3月31日現在:目安約48,500円)が別途必要です。  
旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

**アルパイン ツア サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## ●青森県山岳連盟

青森県山岳連盟は、今年で創立60周年を迎えることになりました。加盟団体数は、昭和40年代から50年代には20数団体もありましたが、現在は10団体で全国の岳連(協会)の中でも小規模な方だと思っております。加盟団体の会員構成も高齢化しており、昨年も高齢化により活動が不可能となったために脱退した団体が出ております。

このような厳しい状況の中ではありますが、JAC青森支部や青森県勤労者山岳連盟などの団体と連携した活動を毎年実施しています。

今年で4回目になる「八甲田山の日」記念 山開き登山は、7月10日(十和田八幡平が国立公園に指定された日)を「八甲田山の日」と定め、毎年7月上旬に一般登山者を対象に参加者を募集して実施しています。

また、北八甲田登山道整備活動は、昨年から青森県の指定を受けた団体が、ボランティアで協力し、今後も継続していくこととしています。南八甲田など県内の登山道の整備についても各団体との連携を密にした活動を今後も続けていくこととしております。

## ●岩手県山岳協会

厳しい冬山シーズンから陽光がまぶしい春山を迎え、高ぶる山への思いを抑える日々です。岩手山(2038m)の8合目、標高1,800m付近にある雲上のオアシス岩手山8合目。戦前まで高層気象観測所が置かれ、富士山測候所同様台風等の自然災害に備えていました。

現在、跡地には「八合目避難小屋」が整備されています。この小屋は、岩手県、滝沢市の委託で岩手県山岳協会が長年管理してきました。滾々(こんこん)と湧き出る御成清水や水洗トイレなども完備し収容人員150人の山小屋は、咲き乱れる高山植物とともにまさに雲上の楽園。協会では、加盟団体の協力を得て5月の連休明けから、10月上旬まで管理人を配置し、宿泊者や事故への対応、安全登山の普及に努めています。岩手山は、毎年7月1日の山開きには、約1キロほどの外輪を県内の自治体や様々団体の旗を掲げた登山者で埋め尽くすかと思うほど大勢の登山者が集います。今年も、東日本大震災からの復興祈願、平成28年の希望郷いわて国体の成功、山の安全を願う多くの登山

者で賑わうと思います。

避難小屋をベースに、自然保護と登山者の安全をサポートしていきたいと思っています。

## ●秋田県山岳連盟

昭和26年11月23日、秋田市C I E図書館において創立された当連盟は、ハイキングやトレッキングといった一般的なものや、より高く、より困難な山を目指す登山、高校総体などで見られる競技登山、スポーツクライミングなど、幅広い取り組みを行っています。主な事業として、年1度の県民を対象とした募集登山の実施、加盟団体及び会員のための山岳文化祭の開催、東北総体予選会、高校選抜クライミング大会の予選会、旧県体方式による県民体育大会、今年度で第34回となる山岳スキー競技大会などの開催、スポーツクライミングの普及を目的とした体験クライミング及び体験ボルダリングを秋田県スポーツ科学センター屋内外ウォールにおいて月2回開催しています。また、ボルダリング設備のある高校にルートセット及び指導のため、指導員等の派遣を行うと共に強化指定選手を対象にした強化合宿を適宜実施しています。その他として、遭難時の対応、一般登山者への安全登山、自然保護の普及啓発及び海外遠征等の啓発普及のため調査研究等を実施しています

## ●宮城県山岳連盟

来年の全日大会においでください!!

平成27年度の全日本登山体育大会は宮城県で開催されることになりました。宮城岳連では、4月から実行委員会を発足させ、本格的に準備をしていきます。

1日目は県北の栗駒山登山口で温泉に入って旅の汗を流し、2日目は栗駒山の紅葉を楽しみ、下山後は鳴子温泉で温泉を堪能するという、贅沢な大会です。

岩手・宮城内陸地震と東日本大震災という2つの大地震に見舞われた栗駒地域ですが、復興の願いを掛けて全国の岳人をお待ちします

## ●山形県山岳連盟

山形県山岳連盟は、今年創設65年を迎えます。岳連行事として毎年継続されている事業に冬山での登山部研修会があります。会場は鳥海山麓での開催が多く、県内各地から組織加盟、未加盟問わず参加を認め、研修会を毎年2月最終土曜、日曜に設定開催しています。

参加者は、概ね30名前後。前日は会場の都合で座学を中心に、翌日は現場での研修会を主催し、親睦と

参加者の資質向上を目指しています。今年の講師は、環境省からお願いし国立公園内の避難小屋の実態と管理について学びました。前日は、勿論地元の銘酒持参での大懇親会と温泉は外せなく、夜遅くまで情報交換と、自慢話と大ぼらの吹き放題です。翌日の解散頃には、鳥海山おろしの吹雪に外の車は完全に雪に埋まっている状態です。



現地での研修会風景

## ●福島県山岳連盟

昭和24年6月5日に日本山岳会福島支部長伊藤弥十郎氏らが中心となり、福島県山岳連盟が創立されて以来、創立65周年を迎えることができました。

創立50周年から15年の月日が流れ私たちの周りでも様々な出来事が起こりました。未曾有の大災害である

東日本大震災そして原発事故での、放射線物質に汚染された山々は未だ回復しておりません。県内の山々を訪れる登山客も減少し、観光や地域文化への影響も計り知れないものがあります。また避難生活を余儀なくされている方々の心痛を思う時、一日も早い復興を心から願わずにはおられません。

近年、創立当時の登山活動の普及と組織化の大義は薄れ、国体山岳競技の変遷に表れているように競技登山の台頭とともに純粋な登山活動を求める山岳会とクライミングを含めた様々な登山スタイルで山を楽しむ山岳会との二極分化の傾向が強くなってきました。職域山岳会は激減し地域山岳会も高齢化と若い後継者の確保に悩み登山技術の継承と山域の自然保護、遭難対策も儘ならない現況に陥っています。これは高体連登山部においても同様な傾向が見られ、登山者の底辺拡大と組織化は急を要する課題であり、登山技術の継承、地域文化への貢献などに直結するものであります。

山は挑戦であり自己の再発見の連続そして人生そのものであります。これまで育んできた山の文化を後世へ伝えるため日本山岳協会が中心となって山の日制定の運動を繰り広げていることは大変意義深いことです。「すべての峰に憩いあり！」

先人が培ってきた山の歴史、教訓に学び、一人でも多くの岳人と出会い、自己を磨き、少しでも前へ高みへのステップを刻むことが、これからの私達に課せられた使命ではないかと思います。

---

---

## 全国「山の日」制定協議会臨時総会

---

---

3月4日に東京千代田区の弘済会館で、臨時総会が開催された。冒頭、谷垣禎一会長が開会の挨拶をし、今通常国会に8月11日を「山の日」とする法案を提出し、26年度予算成立後、出来るだけ早い時期に法案を通したいと語った。議事の次第は以下の通り。

### 1. 規約の改正案の承認

第3条・目的(その意義を広く国民に伝えること、及び「山の日」に関わる広範な分野の発展に寄与する、を加筆)第5条・年度(4月～3月に変更)、第10条・総会(5月開催に変更)、第11条・解散(制定後、その意義を広く国民に伝え、「山の日」に関わる広範な分野の発展をみることを加筆)についての改正案が承認された。

### 2. 本年度会費の特例案の承認

年度の改正に伴い25年度会費を26年度会費として扱う特例について承認された。

### 3. 事業計画の変更案の承認

準備不足により当初事業計画の大幅な変更が承認された。

### 4. 当面の活動方針の承認

当面の方針及び計画が承認された。

※この臨時総会の後、超党派「山の日」制定議員連盟(衛藤征士郎会長)は、3月28日に「山の日」祝日化法案を衆議院に提出した。

※衛藤征士郎・丸川珠代・務台俊介監修による『いま「山の日」制定—「山の日」祝日化の論点』が上梓された。

四六判、151頁、定価1,800円＋税、2014年3月12日、書苑新社刊



## ヒマラヤニュース

### ネパール・ヒマラヤ登山料改訂

(単位US\$ / 1人)

山カテゴリー	春季	秋季	冬季・ 夏季
1 エベレスト (ノーマル・ルート)	11,000	5,500	2,750
2 エベレスト(他のルート)	10,000	5,000	2,500
3 8,000m峰	1,800	900	450
4 7,501～7,999m峰	600	300	150
5 7,000～7,500m峰	500	250	125
6 6,501～6,999m峰	400	200	100
7 アマダブラム	400	400	200
8 6,500m以下の峰	250	125	70

※上記登山料は、外国人登山者で2015年1月より適用される。

### インド・ヒマラヤ登山料半額に

(単位US\$)

山カテゴリー	2人まで	3～7人	8～12人
1 6,500m以下	250	100/人追加	125/人追加
2 6,501～ 7,000m峰	350	150/人追加	175/人追加
3 7,001m以上峰	500	200/人追加	225/人追加
4 トレッキング・ ピーク	50	25/人追加	50/人追加

※2014～2015年の外国登山隊登山料が、表欄のように半額となる。

### 第14回 JAPANドラッグストアショー出展

3月14(金)～16日(日)に千葉県の幕張メッセで開催された「第14回JAPANドラッグストアショー」に日山協が協力。会場の「ヘルス&ビューティ・インフォメーション・ステーション2014」に設けられた「ライフスタイル提案コーナー(登山)」のブースでこれから登山を始めたい人へのアドバイスや登山相談を行った。

ブースにはマムート・スポーツ・グループ・ジャパンからお借りした登山用品を展示し、山岳共済会などのリーフレットを配った。なかでもミウラ折の「安全登山お守り」が好評だった。入場者は、3日間で約13万人。



ドラッグストアショーの日山協ブース

## 新刊図書紹介

### 『定本 黒部の山賊 アルプスの怪』

伊藤正一 著

北アルプスの最奥部・黒部源流域のフロンティアとして長く山小屋(三俣山荘、雲ノ平山荘、水晶小屋、湯俣山荘)の経営に携わってきた伊藤正一と、「山賊」と称された遠山富士弥、遠山林平、鬼窪善一郎、倉繁勝太郎らの仲間たちによる、戦後大衆登山黎明期



の驚天動地の昔語り。埋蔵金伝説、山のバケモノ、山岳遭難、山小屋暮らしのあれこれなど、幅の広い「山の話」が盛り込まれていて、読者をまるで黒部の奥地にいるような気分させてくれる、山岳名著の一書。

著者の経営する山小屋だけで買った幻の名著が、このほど著者の最終校訂や、新たに旧版未掲載の新規原稿や貴重な写真を盛り込んで、『定本 黒部の山賊』として山と溪谷社から刊行された。

四六判、並製、224頁、定価1,200円+税、2014年2月22日、山と溪谷社刊

### 『山の天気リスクマネジメント』

猪熊隆之、廣田勇介著

山と溪谷社の「山登りABC」シリーズに新たに本書が加わった。山岳気象予報士の猪熊隆之と国際山岳ガイドの廣田勇介の共著。

気象遭難が最も起こりやすい10の気圧配置をまとめた「10種の危険な天気図」や、登山における気象遭難のリスクを避ける方法など、22のQ&A形式で初心者にも理解しやすいように、分かりやすい表現でまとめられている。

小B 6判(112×182)、128頁、定価1,000円+税、2014年3月30日、山と溪谷社刊



日時 平成26年2月27日(休)  
常務理事会:17時30分~19時  
連絡部会:19時~21時  
場所 岸記念体育会館504会議室  
出席者 常務理事会:神崎会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京才、水島、瀧本、青木各常務理事、中島監事(委任)常務理事(13名中13名出席)  
連絡部会出席者:北山、澤田、石倉各委員長(委任)相良、増山、高山、山本、角田

### 1. 専門委員会動静

2月常務理事会以降  
(2月7日~2月26日)

#### [報告]

- (1)国際委員会  
2月10日(火) 出席者8名  
ア 海外登山技術研究会の準備について  
イ 平成26年度委員総会及び第33回海外登山遭難対策研究会について  
・6/14(土)~15(日)、長野県山岳総合センター
- (2)選手強化委員会  
2月12日(火) 出席者4名  
ア ユース日本選手権でのドイツ寄宿報告について  
イ 世界ユースの日本代表選考方法について  
・選考大会:1次選考・ユース日本選手権、2次選考・リードジャパンカップ、3次選考・JOC Jr.オリンピックカップ  
・選考発表及び人数:選考大会の都度、発表を行う。2次選考までに12名程度を発表。3次選考において4名程度を発表
- (3)ジュニア・普及委員会  
2月15日(土) 出席者5名  
ア 「なすかし雪遊び隊2014」について  
イ ジュニア普及情報交換会の準備
- (4)自然保護委員会  
2月18日(火) 出席者12名  
ア 1月常任委員会議事録確認  
イ 山岳7団体自然環境連絡会報告  
ウ 「山の神の会」(仮称)設立準備会(2/5)について  
エ 自然地域し尿処理技術セミナー(2/13)報告  
オ 代表者会議報告  
カ U A A 創立20周年記念式典・自然保護委員総会について  
キ 平成26年度常任委員研修会に

- ついて  
・6/14(土)~15(日)、御岳山ビクターセンター  
ク 第38回自然保護委員総会  
・11/22(土)、広島市  
ケ 第39回自然保護委員総会の開催地候補について  
・東北地区・山形で検討中  
コ ニュースレター(季報)の発行について  
サ 指導員制度の再構築について  
シ 指導員の手引き及びPRカードの発行について  
ス 自然保護指導員育成について  
セ 第3回関東地区自然保護交流会(10月・栃木)について  
(5)競技部合同委員会  
2月20日(休) 出席者15名他1名

- ア 平成26年度競技部総会について  
イ 競技運営員登録の今後について  
ウ ブロック別競技研修会の講師について  
エ 第9回ボルダリング・ジャパンカップについて  
オ 日本ユース選手権2014について  
・ドーピング防止研修会の実施  
・2/20現在、108名申込み(定員になり次第締め切り)  
カ 第70回和歌山国体リハーサル大会(案)について  
・27年6月6日(土)~7日(日)で承認  
キ 平成26年度競技部予算の説明報告  
ク ブロック別競技研修会報告(関東、近畿、中国ブロック)  
ケ 2014WC印西大会の準備進捗状況について  
サ 2月常務理事会報告  
シ 競技運営委員会報告  
・アイスクライミング小委員会(ソ

## 寄贈図書

寄贈本	寄贈者	寄贈内容
雑誌	山と溪谷社	「山登りABC山の天気リスクマネージメント」猪熊隆之・廣田勇介著
	成川隆顕	「いま「山の日」制定」衛藤征士郎他 監修
	山と溪谷社	「ROCK&SNOW」063
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.948 2014 April
	東京新聞	「岳人」No.802 2014 April
	福岡山の会	「せふり」No.361
	NPO法人日本オリンピアーズ協会	「AJNEWS」Vol.28
	スポーツこころのプロジェクト運営本部	スポーツこころのプロジェクト新聞「笑顔をありがとう」第6号 2013秋冬号
	NPO日本トレーニング協会	「JATI EXPRESS」Vol.39 2014 February
	横浜山岳会	「月刊山」981号 26年3月
会報	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」2014 3月 No.431
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」3月号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ アルク」2014 4・5
	(独)日本スポーツ振興センター広報室	「国立競技場」2014 3・4 Vol.602
	岐阜県山岳遭難防止対策協議会	山岳白書「稜線」
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第508号
	(公財)日本体育協会	「SPORTS JAPAN」2014 3-4 vol12 特別号
	大阪府山岳連盟 大阪青雲会	「青雲」No.61 2013年12月
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2014.3.10.No.293
	岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会	「平成25年・山岳白書」
秩父市教育委員会	「平成25年度武甲山図画・作文展作品集」	
中華民国山岳協会	「中華山岳」239	
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.470 2014. 4	
(公社)日本スポーツチャンバラ協会	「2014年度 会報」No.31	
長野県山岳協会	「やまなみ」No.212	
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第312号	
NPO日本スポーツ芸術協会	「Sport Art 2014」	
立山・剣岳方面遭難対策協議会事務局	山岳遭難白書「平成26年 試練と憧れ」	
立山カルデラ砂防博物館	「立山カルデラ砂防博物館 研究紀要」第13号	
信州大学山岳科学総合研究所	「山岳科学総合研究所ニュースレター」第40号・第41号・第42号	
(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」体協フェアプレイングニュース2014年3月17日号	
Korean Alpine Federation	「大山嶽」Vol.183 2014March	
日本山岳会	「山」2014年3月号 No.826	
東京野歩路会	「山嶺」2014/4 vol91 No.1009	
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第409号	
熊本国際観光コンベンション協会	「熊本観光コンベンションニュース」2014 SPRING	
(社)佐賀観光協会	「佐賀市コンベンションガイドブック」	
(一社)日本スポーツプレス協会	「エクストリームプレス」Vol.11 2014 SPRING	
兵庫山岳連盟	「兵庫山岳」第502号	
(公社)日本山岳会 自然保護委員会	「木の目 草の芽」第109号	
Corean Alpine Club	「山」Vol.235 2014MAR-APR	
FEEC	「VERTEX」No.252	
中国登山協会	「山野 中国戸外」187期	
おいらく山岳会	「山行手帖」No652' 14.4	

- チ五輪報告)
- ・トレラン小委員会(WGと競技部の合同会議)
- ス 技術(審判)委員会報告
- ・審判員昇級申請書の全国配布
- ・審判員・ルートセッター会議の開催(3/15)
- セ 国体後催催の準備状況について
- ・長崎県:日山協派遣中央役員の確認 第1回基準会議日程(5/17~18)の説明
- ・和歌山県:正規視察報告書の日体協提出
- (6)遭難対策委員会
- 2月26日(水) 出席者7名
- ア 積雪期レスキュー講習会の開催結果について
- イ ロープ・フォーラム(2/22、参加者20名)の報告
- ウ 日中韓技術交流研修会の準備について
- エ 雪崩アンケートのまとめについて
- オ 常任委員研修会について
- ・5/10(土)~11(日)、上尾市スポーツ総合センター
- カ 26年度委員総会
- ・6/28(土)~29(日)、いこいの村あしがら
- キ 全国山岳遭難対策協議会の講演候補者について
- ・でがわあずさ氏(雪崩ネットワーク)
- ク 無雪期レスキュー講習会について
- ・9/26(金)~28(日)、国立登山研修所

**2. その他の重要事項**

(2月7日~2月26日)

**[報告]**

- (1)全国山岳遭難対策協議会
- 2月7日(金) 於:文部科学省会議室 西内常務理事、中川事務局員
- (2)「なすかし雪遊び隊2014」打合せ
- 2月9日(日) 於:国立那須甲子少年自然の家 本木顧問、仙石、青木常務理事
- (3)岩手県山岳協会打合せ
- 2月10日(月) 於:盛岡・アイーナ会議室 内藤監事、尾形専務理事、高橋理事
- (4)U A A A 記念総会打合せ
- 2月12日(水) 於:広島市 神崎会長、小野寺、京才常務理事
- (5)日本勤労者山岳連盟第31回総会
- 2月15日(土) 於:晴海グランド

- ホテル 神崎会長
- (6)ジュニア普及情報交換会
- 2月15日(土) 於:国立オリンピック記念青少年総合センター
- 神崎会長、本木顧問、西内、仙石、青木常務理事
- (7)第52回海外登山技術研究会
- 2月15日(土)~16日(日) 於:国立オリンピック記念青少年総合センター 神崎会長、澤田委員長
- (8)中国ブロック競技研修会
- 2月15日(土)~16日(日) 於:島根県立青少年の家 目次副委員長、松田・西原常任委員
- (9)近畿ブロック競技研修会
- 2月15日(土)~16日(日) 於:滋賀高山・山本委員長、滝内常任委員
- (10)北信越ブロック競技研修会
- 2月15日(土)~16日(日) 於:石川県金沢市・医王山スポーツセンター 森、佐原常任委員
- (11)冰雪技術研修会
- 2月15日(土)~16日(日) 於:大山永井副委員長ほか
- (12)平成25年度代表者会議
- 2月16日(日) 於:tkp渋谷カンファレンスセンター
- 神崎会長ら出席者55名
- (13)ロープ強度・フォーラム
- 2月22日(土) 於:日本青年館 西内・瀧本常務理事ほか
- (14)ボルダリング・ジャパンカップ
- 2月22日(土)~23日(日) 於:静岡県・Climbing JAM 東静岡 神崎会長、森下常務理事、山本・北山委員長
- (15)山岳スキー競技アジア選手権大会
- 2月22日(土)~23日(日) 於:韓国 佐伯常任委員ほか選手9名
- (16)自然公園財団理事会(第2回)
- 2月25日(火) 於:自然公園財団 本木顧問
- (17)山岳5団体「山の日」連絡会議
- 2月26日(水) 於:日本山岳ガイド協会 尾形専務理事
- (18)WGリーダー会議 2月27日(木)
- 於:岸記念体育会館 神崎会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事

**3. 議 事**

- (1)平成25年度2月常務理事会議事録の承認について(承認)

- (2)平成25年度代表者会議議事録の承認について(承認)
- (3)平成25年度第1次補正予算(案)について(必要相当額の退職給付引当金を一般正味財産から振替る事を追加して承認)
- (4)平成25年度理事会(第4回)議案について(提案通り承認)
- (5)平成26年度自然公園指導員表彰候補者の推薦について(候補者の推薦については、自然保護委員会に一任することで承認)
- (6)第1回アジア大学クライミング選手権大会の出場校推薦団体の承認について(大学スポーツクライミング協会が代表校を推薦することを承認)
- (7)報告事項
- ア 会計月次(別紙にて報告)
- イ WG総括報告について
- ウ キルギス山岳協会企画レーニン峰登山への参加者推薦について(鈴木百合子、大部良輔の自費参加を承認)
- エ 第3回International Trad Climbing Meet参加者推薦について(須田忠明の自費参加を承認)
- オ 安全登山実践講座・基礎編テキストについて
- カ 各都道府県競技選手の登録について
- キ ロープ・フォーラムの報告(懸垂下降用ロープの結束強度について)

**4. 後援、協賛等の依頼について**

創立75周年記念日本山岳写真協会展「2014—山・われらをめぐる世界」の後援名義について(日本山岳写真協会主催)(承認)

**編集後記**

桜咲いて春らしい陽気になり、植物の芽吹きに躍動感が感じられる。新年度を迎え何事にも新たな気持ちで向いたい。ゴールデンウィークが近い、最近の天気は激変するので予報には注意を、過信せずわが身の安全は自分で。山岳保険の加入も忘れずに！！  
(広報担当 水島彰治)

NPO法人 **北丹沢山岳センター**

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和四峠「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 **杉本憲昭**

NPO法人 **北丹沢山岳センター**

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 **杉本憲昭**

登山月報 第541号

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 平成26年3月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
岸記念体育会館内  
公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395

# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。  
山岳保険の加入は登山者のマナーです。

## ■平成24年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成25年6月13日)

発生件数 **1,988** 件 (前年対比 158 件増)

遭難者数 **2,465** 人 (前年対比 261 人増)

死者・行方不明者 **284** 人 (前年対比 9 人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

U R L : <http://sangakukyousai.com>